

チリ 生食用ブドウのシーズンが始まる

[FreshFruitPortal](#) 2024年12月6日

チリ産の生食用ブドウの輸出が始まっており、業界の現状を知ることが重要である。[Freshfruitportal.com](#) (本サイト)が、農学者であり、コンサルタントであり、ウバノヴァ社の社長であるラファエル・ロドリゲス氏の話聞いたところ、同氏は「果実は全般的に順調で健全である」と述べた。アタカマ州では既に収穫が始まっており、同氏は「全体的に見て、産地は自然の秩序に従っている」と付け加えた。(以下「」は同氏の話)

チリは今年、生食用ブドウをシステムアプローチの下で米国市場に輸出する承認を得ており、この新しいプロトコルの下でアタカマ州から8千箱以上のブドウを出荷する。このプロトコルにより、果実の燻蒸処理が産地での検査に置き換えられ、チリの果実輸出に競争上の優位性がもたらされる。ロドリゲス氏は、「(このプロセスは)進展しており、機能している」と述べた。

国内の他の地域の現状について同氏は、バルパライソ州から南部にかけての出荷量が少なく、特に従来品種でそれが目立っていると言う。

業界が経験しているもう一つの肯定的な側面は水資源に関連している。「全国の水供給は十分であり、水が不足していた地域でも今シーズンは足りている。生育条件は全般的に、また特に果実の将来の状態を決定する開花期において、良好である。中南部地域では春が涼しく植物に良い影響を与えているため葉の状態が良好で、果実の状態も良くなると自信を持っている。」

市場 ロドリゲス氏は市場を分析し、米国市場に期待していると明確に述べた。これは、米国カリフォルニア州では今年の生産量が回復したものの、6月に熱波の影響を受けたため果実の生育が前進し、最終的な出荷量が予測よりもやや少なくなったためである。「(同州の出荷量は)おそらく9千万箱弱ではないか。」

同氏はさらに、これまでの在庫量について、昨年と同時期と非常に似ているとして、「市場は供給が不足して非常に引きが強く、ペルー北部の果実が米国産の在庫を補完する良い機会である」と述べた。チリについては、「需要の高い時期に市場に入荷し、これは我々の出荷シーズンの始まりとして良いことだ」と指摘した。

一方、ヨーロッパでも域内産果実の在庫が少なく、「そのため、市場は引き合いが強く、価格は従来よりも高くなっている。ペルーのほかブラジルと南アフリカもこの機会をある程度利用しており、チリにとっても良い機会になる。」

ロドリゲス氏は、年末には、米国とヨーロッパは生食用ブドウの消費が非常に良好に維持され、価格も改善するだろうと付け加えた。「イカ県(ペルー)のブドウからチリ産への移行を期待している。イカ県は昨年よりも出荷量が多いため、品質の良い果実が市場の需要を維持し、両国産の価格が保たれることを願っている。」

「果実の品質が安定的に高く、収穫と収穫後処理の取組みが改善している重要な供給国として、チリを強化する良い機会である。これは、米国、メキシコ両国のシステムアプローチの下で実施できることに加えて、果実の状態を改善し、果実の販売量と価格の両方を改善するのに役立つ。」

同氏は、今シーズンはチリのブドウの3分の2以上がライセンス制の品種であり、「取引先にとってチリの果実を扱うことがはるかに魅力的になっている」と説明した。

チリの生食用ブドウの課題 同社長は、「(第1に)栽培されるエコゾーンと品種が異なり、輸送時間も異なる果実が、それぞれ最適な熟度を見出し、良好な着荷状態と良い消費体験を保証するためには、」より良い成熟度指数を開発することが重要であると述べ、また、「(第2に)チリは収穫とポストハーベストの技術とプロセスの改善に引き続き取り組まなければならない」と説明した。

同氏は、「第3に、各市場が期待する相応しい品質の果実を出荷するという点で方針をしっかりと定めること、出荷量の見積もりをうまく行うこと、そして、うまく行っているかも知れない市場に過剰な供給を行うことで台無しにすることが無いよう取引先に常に情報を提供し続けることが重要である」と結論付けた。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)